

伝道主日
説教

命がけですべきこと

<使徒言行録20:22-27>

李 在 益（新潟教会）



この世の人々は偽りの真理にだまされて生きています。人々が救われない理由の一つは、偽りにだまされているからです。多くの人が死後の生活について偽りの知識をもって生きています。この世の人々は、人生を生きて死ぬと、終わりだと言っています。また、一部の人々は、死ぬば別の存在に生まれると言っています。ヘブル9:27節には「一度だけ死ぬことと、死んだ後さばきを受けることが、人間に定まっているように」と記されています。これは人の言葉ではなく、天地を造られた神の真理の御言葉なのです。人が死んだ後、神の前で審判を受けることになり、その時、罪の問題が解決された人は、天国に入るが、そうではない罪人は永遠の死である地獄に入るのです。

この世にはたくさんの宗教があります。その宗教の教えはほとんど良いことです。しかし、どんな宗教にも永遠の天国に対する、確かな約束は保証されていません。しかしキリスト教は違います。永遠の天国に対する確かな約束があります。それはイエス・キリストが復活されて、死んでも生きるいのちをくださったからです。この地を踏んで生きる人々は、それぞれの願いがあります。人々は食べること、着ること、住むこと、成功することなどに命をかけています。よく見てみると、何を追いかけているのかによって、その人がどんな人物なのかを知ることができます。今、私たちはどのように生きていますか？何を見ながら行動していますか？

御言葉を通して見てみましょう。使徒パウロはキリスト教を迫害した人でしたが、後に復活されたイエス様に会って、キリスト教の福音を伝える者となりました。そして、今日の本文を見ますと、使徒パウロは命をかけてすべきことが何かを告白しています。それは何でしょう。

第一、福音を証しすることです。（22～24節）

使徒パウロはその後エルサレムに行くと言いました。当時のエルサレムはイエス様を殺した群衆のいるところでした。そして、イエス様を信じる人までも迫害し、殺すような状況でした。でも、パウロがそのことを知っていながらも、そこに行くと言う理由の一つです。福音を証しすることです。そうです、福音を伝えることは命をかけてすべきことなのです。なぜなら福音を通して、人々の死んだ霊的な命が生きかえるようになるからです（ローマ1:17）。つまりパウロが福音を証しすることに命をかけたのは、それが他の人を生かすことであったからです。イエス様も罪人である私たちのために十字架で亡くなりました。ですからそのイエス様を信じる私たちも他の人の命を生かすことに一番大きな価値を置いて生きるべきです。そういう生活とは、当然福音を証しすることです。そのことを怠慢にすると他

の人を永遠の死に放置することになり、責任は大きく問われます（エゼキエル33:7～9、コリント9:16）。2019年には、生命を生かすことをしましょう。イエス様の心を持って生きていきましょう。

第二、神のご計画を余すことなく知らせることです。（25～27節）

使徒パウロは福音を伝えることだけでは終わりませんでした。より細かく主の御心を教え、知らせました。それは両親が子どもを産むだけで終わるのではなく、子どもを養育する責任まで果たさなければならない事と同じです。イエス様もあらゆる国々の人々を弟子とし、洗礼を授け、そして、すべてのことを守るように彼らを教えなさいと言われました（マタイ28:19～20）。これは人を育てることです。人を育てることは主の御言葉を忠実に良く教え、主の御心を行う人に育てることです。特に子を持つ親である人は、子どもに主の御言葉を余すことなく教えるべきです。それが信仰ある親として、子どもにすべき一番大きな使命です。使徒パウロが命をかけてそのことをしたように、私たちもそのようにすべきです（申命記6:6～7）。もし、そうしなかったことにより、子どもが地獄に行かねばならなくなった責任は親にあります。子どもたちに残しておくべき一番の遺産は、お金や健康や知識や成功や名誉ではありません。主がくださる永遠のいのちなのです。

本当に真実な心でイエス・キリストを信じていますか。そうであるならば、この世が与えることのできない三つの特別な恵みを受けた人です。それは罪から許されたこと、新しい命を得たこと、永遠の天国の相続を受ける人となったことです。ですから本当にイエス・キリストを信じるのであれば、使徒パウロのような告白もできます。私たちの肉体の命を「霧」だと聖書はいいました。（ヤコブ4:14）しかし、霊的な命は永遠です。どうか霧のように消える人生を生きる間に他人の益となる人になり、死んでからはイエス・キリストと一緒に永遠の命の祝福を受ける人生となりましょう。

生涯において、命をかけても惜しまない価値のあることを見つかることができたのならば、それは幸いな人生です。使徒パウロがそのような人生でありましたし、イエス様の弟子たちもそのような人生でした。そして彼らは皆、福音を証し神のご計画を余すことなく知らせながら、殉教の死を遂げました。しかし、彼らはより良い天のものを豊かに得ることができました（ヘブル11:24～26）。私たちもそのように生きていくべきです（マタイ6:33）。主が再び来られる日を待ちながら、謙虚に生きましょう。すべての教会と信徒たちに、恵みが共にあることを心より祈ります。

2019年を迎えた新任宣教師たちのメッセージ2

沖縄教会 <郭庸吉 牧師>

2016年5月19日委任



大韓イエス教長老会(統合)から派遣され、日本に来て4年目になりました。満4年も経っていませんが、まるで40年経ったような気がします。通常宣教師は言語を学び、シニア宣教師から訓練を受ける過程を経験しますが、私は沖縄教会に着任した2015年2月26日のその次の日から早天礼拝を始めました。しなければならぬ雰囲気であったとか、すべきだという強要ではなく、しなければならぬという危機感から始めました。1年5ヶ月の間、牧師がいなかった状況で、信徒十人余りが集まり教会を守っておられ、長く解決されていない問題でさわがしくある教会でした。

建物も雨漏れする所が多く、また壊れたものも多くて、リサイクル倉庫のように捨てなければならぬゴミがあちこちに溢れていましたし、扉を開くとどこもカビの臭いがしました。教会の信徒たちも、米軍部隊に勤務する韓国系アメリカ人、日本人、韓国人などが集まり、礼拝後の食事の時間になると、英語・韓国語・日本語で話しているので、たいへん困惑しました。ところが、赴任した牧師は日本語も出来ず、英語もできなく韓国語

も流暢ではない忠清道出身者です。このような状況で夜明けに目覚め、祈ること以外はありませんでした。どんな計画も立てることが出来なく、何かをしようとした人たちも、その翌年になると、米国へ、韓国へ転勤してしまう場合が数多くありました。そしてある時、祈りの中で神様が語られ導かれる通りに従うことが、最も重要であると思われて、今日までそのようにしてきました。

韓国での牧会のように計画を立てて推進することを諦め、神の導きに従おうとすると、少しずつ教会が変わり成長し始めました。今年も主に従うために、主人の指先だけを見ているしもべのように、待ち構えています。日本に来る前の抱負は、空気が抜けたタイヤのようになってしまい、今日も命を延長させて下さった主に、夜明けの祭壇を覚ましながら、祈るようにして下さることを感謝し、今日の一日も聖霊に満たされ幸せな宣教師とならせて下さいと祈ります。毎日夜明けごとに日本の宣教師で間違いなのか、私の住んでいるところが日本であることを確認しています。

新年の願いは、神様が足りないしもべを通して働かれ、栄光を受け取られることだけあります。

三次教会 <李相徳 牧師>

2017年11月11日委任



基督教大韓監理会から派遣された宣教師として、西部地方会三次教会に赴任したのは2017年5月でした。三次での生活も1年8カ月が過ぎました。四人家族のみんなは、割とよく定着してきました。妻の日本語も伸びています。二人の子供も楽しく学校や幼稚園の生活をしています。私も三次が大好きです。家族みんなの三次生活がかなり幸せなのは、いつも信頼してくれる三次教会の皆さん、親しくなった近所の方々、いろんな出会いで繋がっている方々のおかげです。

三次教会は日本語で礼拝する15人未満の小さな共同体です。伝道のためには突破しねばならぬ限界線があります。牧師一人で苛立て動いてはいけないし、何もせずに怠けてもいけない、と思います。まずは2019年教会標語「礼拝の喜びに生きる教会」が共同体の一人一人に実現することが、伝道への大切な一歩だと確信しています。

また、同じ広島県の福山伝道所にも触れたいと思います。礼拝は礼拝堂を借りて月2回行われています。女性の方が多く、礼拝の言葉は主に韓国語です。現在、私はここの臨時堂会長ですが、この共同体は正式な担任牧師が必要です。福山伝道所のために祈ってください。

大阪教会 <金忠洛 牧師>

2015年5月、副牧師就任



まず、各教会の牧師先生、そしてすべての信徒の上に神様の豊かな恵みがありますように祈ります。2019年は私が日本に来て7年目、そして代官イエス教長老会(統合)から宣教師として派遣されて5年目になります。すべてが神様の恵みです。

私は現在、大阪教会で副牧師として仕えております。2013年同志社大学で日本語を学びながら、京都教会で説教をさせていただき、その後、2014年12月から大阪教会で仕えさせていただきました。当時は宣教師ではありませんでしたが、鄭然元牧師と堂会の配慮で2015年5月宣教師として派遣されました。

2019年は神様から任せられた使命に最善を尽くして仕え、また、神様のお呼びにいつでも、どこでも行けるように準備して参りたいと思っております。

最後に、すべての信徒の上に福音の喜びが溢れることを切に祈り致します。

中部地方会

金明均牧師委任式挙行

名古屋教会に第8代牧師として赴任



去る2018年12月16日、中部地方会の名古屋教会において、金明均担任牧師の委任式が行われた。

14年間名古屋教会を牧会した金性済牧師が、日本キリスト教協議会(NCC)の総幹事として就任するため、2017年12月をもって教会を離れることになり、この度金明均

牧師を請聘することになった。

中部地方会の各教会から大勢の信徒が参席し、臨時堂会長の鄭守煥牧師の司会で行われた礼拝では、全炳玉牧師の「幸福な教会」(使徒2:42~47)という題の説教があった。

中部地方会長の崔和植牧師の司式により始まった牧師委任式には、誓約と祈祷、宣布が出された。李珍容牧師、金勝正長老が勸勉をし、総幹事の金柄鎬牧師が祝辞を述べた。

委任された金明均牧師は、1964年韓国の釜山で生まれ、聖潔教神学大学を卒業してから日本に留学し、大阪基督教短期大学、関西聖書神学院などを卒業した。

2000年関西地方会において牧師接手を受け、奈良教会、福岡中央教会で牧会され、西南地方会長、総会の教育委員長を歴任した。

家族は、岸本真理子夫人がいる。

関西地方会

2019年「新年査経会」開く 大阪地域と京都地域に分けて開催

2019年1月13日(日)～14日(月)、関西地方会の2019年「新年査経会」が、伝道部主催で、大阪地域、京都地域に分けて開催された。今年も、水村光義牧師(OVMC津田キリスト教会)が講師として招かれ、「見よ、新しいことをわたしは行う!(イザヤ43:19)」という主題で行われた。大阪地域では、13日(日)午後3時から大阪教会で、講師の水村光義牧師が、「わたしはあなたがたを遣わす」(マタイ10:16～24)という題で、弟子としての生き方について、情熱的なメッセージを伝えた。

また、14日(月)午後3時から京都教会では、約30名が参加し、水村牧師による「教役者及び夫人セミナー」(主題:ジーザスコーチング)を開催し、午後6時から京都教会で、62名が参加し、「今や、義の栄冠を受けるばかりです(IIテモテ4:6～8)」という題で説教が行われた。

今年の新年査経会は、関西地方会の各教会が神さまの御言葉で大きな恵みを受けて、1年を忠実に生きて行くことを誓う時



であった。新年査経会のために奉仕された方々に感謝しながら、これからも関西地方会の各教会が連合して、御言葉で恵みを受け、祈りと伝道と日本宣教に専念して行くことを願う。
(報告:金大賢牧師)

西南地方会

正初査経会・都諸職会開く 「神の召命」という主題で43名集め

西南地方会において、正初査経会及び都諸職会を主の恵みのうち、去る2019年1月13日、主日の午後福岡教会において開催された。

今回の集会は「神の召命」という主題をもって進行され、金仁果牧師(福岡教会)を講師とし、一部では「わたしは必ずあなた

色久光明園家族教会訪問 関西聖歌隊連合会と岡山教会が合同で



関西聖歌隊連合会と岡山教会が合同で、今年もさる10月20日色久光明園家族教会で合同礼拝を持った。今年も関西聖歌連のメンバーと岡山教会と10教会25人の信徒たちと共に合同礼拝を捧げた。礼拝(説教:林明基牧師)、

讃美(指揮:尹聖澤長老)、2部の交わりの時間では信徒たちで韓国の童謡「고향의 봄(故郷の春)」日本の童謡「故郷」を歌った。また、高齢化により家族教会の信徒人数が減っていることに対して寂しさを感じながらも、毎年のように家族教会の信徒たちが家族教会の歴史と信仰を証してくれた。「政策により差別、排除に対する怒り、そして1988年色久長島大橋が開通したことは大きな喜びだった」という言葉は今でも私を含め、訪問した者たちの心に残っている。
(報告:金恵淑)

<総会手帳のお詫びと訂正>

総会手帳の住所欄に誤りがありましたので、訂正いたします。
◎東京中央教会 張承権牧師emailアドレス:
amkeaway@gmail.com → makeaway1@gmail.com

と共にいる」(出3:1～12)、二部では「召されたもの」(民12:1～16)という題でメッセージをされた。

都諸職会では、西南地方会の各教会の新年の標語や、牧会と教会の事情などを聞く時間をもった。遠い沖縄からも参加者があり、西南地方会の11教会から43名が参席した。
(報告:辛治善牧師)



地域活動紹介 東京希望キリスト教会

高齢者集め「希望会」主催

東京希望キリスト教会では毎週木曜日に、日本で暮らす20～30名のハラボジ、ハルモニたちが集まり、楽しく温かい愛の時間を過ごしている。

このプログラムは川崎教会の故 李仁夏牧師が主管していた「トラジ会」から始まり、15年ほど前から、金イルクォン氏が自宅を開放して続けて開いていたが、金東洙牧師が赴任していた時に東京希望キリスト教会に移った。

教会は宣教という意味でイエス様の御旨だと考え、8年前に「希望会」と改称し、梁竜禧伝道師をはじめ、信徒たちが集まって奉仕するようになった。最初は約10名ほどだったが、20人、30人と増えていき、信仰の働き手が増え、他の教会の信徒たちも支援してくれることになった。

「希望会」と改称したのち、教会の1階での「祈り」で始まり、健康体操や鍼灸などで膝・腰・肩・頭・目・全身、そして心の傷まですべて癒し、すべての病の予防につなげている。ある95歳のハルモニも「ずっと通っているおかげで健康で、鍼を打ってもらうのが楽しみです。みんな1週間が待ち遠しいと言っていますよ。」と喜んでいて。

それが終わると、教会の3階の食堂で、たくさんのおいし

いご馳走を分かち合いながら親睦を深める。こうした方々のうち、1年に1～2名ほどは教会に導かれ、決心して洗礼を受けるので、イエス様のみ恵みとお働きにより信仰の実を結んだことを、奉仕者たちは喜び感謝している。

また、歌を歌いながら「外国での生活のものの寂しさや、やり直すことの叶わない人生の虚しさからか、若い頃の歌を体の痛みも忘れて歌っていました。」と話されるのを聞き、神様がこの方たちをどれほど尊く思っているのかわかるだろうかと考えさせられる。

この方たちが、天国で神様が待っておられるという希望を持ち、すべての人が主を受け入れ、信じ、天の御国で永遠の命を共に分かち合う祝福が訪れることを切に願いつつ祈っている。

(報告:夫奉秋長老)



西部地方会

神戸東部教会 金吉秀・朴永晃長老将立式挙行

去る2018年10月14日(主日)、神戸東部教会に於いて、台風により延期された金吉秀・朴永晃長老将立式が行われた。

堂会長韓承哲牧師の司会で始まった礼拝には武庫川教会の梁榮友牧師が「イエスの弟子選び」(マルコ3:13~16)という題目で説教され、将立式は西部地方会長の韓世一牧師の司式のもとで行われた。

今回将立された金吉秀長老は、1957年日本で生まれ、大阪布施教会で受洗し、横浜教会、船橋教会に仕え、2008年から神戸東

部教会において執事として仕えられた。家族は夫人の全賢淑執事と子供2人。

朴永晃長老は1966年韓国で生まれ、光州東山教会で受洗し、2004年から神戸東部教会において執事として仕えられた。家族は夫人の金海淑執事と子供1人。



●特集● 2・8 独立宣言(3)

そして新たな挑戦



在日本韓国 YMCA 総務 朱 宰 亨

1844年6月6日イギリスの首都ロンドンで22歳のジョージ・ウィリアムスをはじめとする12名の青年たちが、産業革命直後の混乱した社会の中で困難に直面していた勤労青少年たちの「精神的・霊的な状態の改善」を図るための親交の集まりを組織したのがYMCA運動の始まりであった。

このYMCA運動は欧米諸国で急速に発展し、1855年にはフランスのパリにおいて世界YMCA連盟(The World Alliance of YMCAs)が結成された。その後、160余年を経た今日、世界120余りの国で約1万4千の組織と8万8千名の専門スタッフ、92万名のボランティア指導者、そして6千5百万余名が会員活動に参加する、世界最大の青少年運動体に発展した。

世界のYMCAと韓国、日本のYMCAは、長い歴史において、運動の目的とビジョンを時代によって解釈しなおし、改定を重ねてきた。世界YMCAは1855年のパリ基準にはじまり、1973年のカンパラ原則、1998年のチャレンジ21の採択に至るまで、その時代ごとの目的と理念を継続して追求してきた。

在日本韓国YMCA(設立当時の在日本朝鮮基督教青年会)の起源は、1906年ソウルYMCAが派遣した金貞植総務が、神田美土代町に所在していた東京YMCAの2階の1室を借りて、聖書研究班を中心的プログラムとして開始したことに遡る。

1907年8月には当時の神田区西小川町に自らの建物を持つようになった。留学生たちは東京に到着すると最初にYMCAを訪ねて相談を行い、下宿の紹介や日本語教育等、留学生生活

安定のための支援を受けた。金貞植総務の聖書を土台にした福音主義的敬虔主義の影響によって、留学生の中には改宗者が増え、受洗したクリスチャンが増加すると、1908年にはYMCAの中から在日韓国人教会の始まりである、今日の在日大韓基督教東京教会を創立することとなった。

また近代国家に変貌した日本を学ぶために留学に来たが日本人の冷淡な視線の中で常に委縮して生活しなければならなかった留学生たちが一堂に会して、民族的自覚と団結のための運動会を開催する等、YMCA活動の中において、キリスト青年運動の本質を理解し、救国運動の礎を築く機会を作った。

2・8独立宣言の中心となった在日本韓国YMCAは、2・8独立宣言100周年を迎え、韓国社会と日本社会がこの時代に求める運動課題を認識し、また新たな100年のスタートを切ろうとしている。目的と理念及びビジョンと課題を新たに定め、平和で公正な民主的共生社会を築いていくために、ソウルYMCA初代韓国人総務であった月南・李商在先生の遺訓である「一心相照不言中 ～一つの心は(心を同じくすれば)言葉がなくてもお互いを照らす(通じ合う)～」という一心(ハンマウム)精神と「父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。」(ヨハネ17:21)の聖句を通して与えられた召命に全力で応える所存である。

宣教師・神学生研修会案内

在日大韓基督教会に加入する宣教師と、神学校を卒業し伝道師考試を受験する方のために研修会を実施します。

●日 時: 2019年3月10日(主日) 17:00 ~ 16日(土) 17:00

●場所(講義・宿泊): 在日総会神学校(東京都足立区西新井本町4-5-1)

●履修科目: KCCJ神学・宣教理念・憲法・規則、在日同胞史、KCCJ歴史、日本教会史・神学、エキュメニカル神学、KCCJ牧会・礼拝・礼典・説教など、総会行政・年金・福祉など日本生活全般

●交通費・参加費: 総会が負担します。

●詳細は総会事務局に問い合わせください。(総幹事080-4377-3927)

